



あなたのコメント

購読一覧



トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 特集 意識調査 ランキング

新着記事一覧 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ オーサー一覧

石原さとみ主演ドラマ『アンナチュラル』の研究所は理想形？ 実際の「死因究明」現場は問題山積み



柳原三佳 | ノンフィクション作家・ジャーナリスト

1/29(月) 6:55

ツイート シェア ブックマーク



(写真：アフロ)

1月12日（金）からスタートしたTBS系ドラマ『アンナチュラル』。石原さとみさんが演じる法医解剖医・三澄ミコトが、通称「UDIラボ」（UNNATURAL DEATH INVESTIGATION LABORATORY = 不自然死究明研究所）で、解剖や薬毒物の検査などを行いながら、不自然な死の真実を追求していくというストーリーです。

ドラマの中での「UDIラボ」は、国や地方公共団体からの補助金を受けている公益財団法人という設定で、死因究明に携わる専門家がチームを組んで仕事をしています。が、これはもちろん架空の団体で、現在の日本にはこうした機関は存在しません。

ドラマを見た複数の法医学者からは、

「日本にもあんな研究所ができればいいですね。ある意味、理想形です。現実の解剖現場は、問題が山積みなんです……」



柳原三佳の書籍情報



柴犬マイちゃんへの手紙 無謀運転でふたりの男の子を失った家族と愛犬の物語

著者：柳原三佳

交通事故の過酷な現実を描いた話題の児童書

この本をさがす

Yahoo!ニュースからのお知らせ



Tポイントでも買える おすすめ有料記事

世界を発見する、想いを伝える【映像クリエイターの発信プラットフォーム】

有識者・専門家がニュースに切り込む



「Yahoo!ニュース 個人」のオーサーによるコメントをチェック

個人アクセスランキング（国内）

1 就職が決まっているから卒業要

こんな切実なつづやきを聞きました。

先進国最低水準の解剖率、犯罪見逃しの原因に

このテーマについては、私自身も長年取材を続けてきました。

「本当は交通事故ではなく、誰かに殺されたのではないか？」

「病死と判断されたけれど、一酸化炭素中毒ではないのか？」

「自殺と判断されたが、本当は事故ではないのか……」

大切な人の死因に納得できず、苦しみ続けている人があまりに多かったからです。

Yahoo!個人ニュースでもこんな記事を書きました。

●【青酸連続殺人】なぜ被害は拡大したのか？ (2017/11/8配信)

●睡眠導入剤混入事件で浮かび上がる日本の「解剖率」の低さ 法医学者も警鐘 (2017/7/20配信)

じつは、日本の変死体解剖率は約12%で、先進国の中では最低水準です。都道府県別に見ると、2%前後という県もあるほどです。

死因が不明でも、遺体の大半は解剖されることなくそのまま火葬されており、その結果、**本当の死因が見逃されたまま犯罪見逃しがこれまでもたびたび起こってきたのです。**

「死因究明・個人識別システム研究会」発足

そんな中、現状を憂い、改革を目指す法医学者らを中心に、「死因究明・個人識別システム研究会」が発足し、1月14日、東京で第1回目の総会が開かれました。

『死因・身元調査法成立の経緯と、今回の研究会の立ち上げの目的』と題した基調講演を行ったのは、この研究会の会長で千葉大学法医学教室の石原憲治氏です。

会場には、全国各地の大学で死因究明に携わる法医学者のほか、内閣府の担当者、弁護士、刑法学者、メディア関係者などが集まり、活発な議論が交わされました。

件を甘くしろとでも？TOEIC点数不足で「卒業危機」報道の問題点

藤代裕之 1/30(火) 11:30



2 「待機児童なんて一人もいない」炎上の自民・杉田議員「保育園で洗脳教育」「男女平等は反道徳の妄想」とも

志葉玲 1/30(火) 15:30



3 裁量労働制で月給25万円以上はわずか1割！低賃金でも「残業代ゼロ」

今野晴貴 1/30(火) 12:00

4 母子家庭を生活保護から切り離しては？

橘玲 1/29(月) 17:00



5 一時保育の申請に深夜2時から並ぶ。フリーランスや女性経営者の預けたいのに預けられない苦しい実態

小酒部さやか 1/30(火) 7:30



6 月ぎめで新聞を取っている人の実情をさぐる

不破雷蔵 1/30(火) 9:02



7 イージスアショアとSM-3ブロック2A

JSF 1/29(月) 23:05



8 社会的質のバロメーターとしての血液循環。「たかが献血、されど献血」。

にしやんた 1/30(火) 14:47



9 再び南岸低気圧と首都圏の雪

饒村曜 1/29(月) 5:00



10 NEM580億円盗難も仮想通貨に怯えるIMF「中国人民元より怖い」日本は安全対策と利用者保護の確立を

木村正人 1/30(火) 7:01





基調講演を行う、会長の石原憲治氏（筆者撮影）

厚生労働大臣秘書官の経験も持つ石原氏は、自身が国会議員の政策秘書だった頃からこの問題に深くかわり、死因究明法案の作成等に尽力。講演では2004年から始まった国会での議論と制度改革の経緯などを解説しながら、2012年9月の死因究明等推進法施行、2013年4月の死因身元調査法施行に至るまでの経緯について振り返り、その意義と今後の課題について指摘しました。

2法成立の意義と課題

意義

- 初めての死因究明制度全体を視野に入れた法律・かつ制度改革の起点となりうる法律
- 犯罪の可能性の低い死体を含め、死因調査を初めて警察の責務として法律に明記
- 身元確認業務、医師・歯科医師の立会い・協力を明文化
- 新しい制度による解剖数増加の可能性
- 侵襲行為の合法化によるグレーゾーンの解消

課題

- 死因究明を行う専門的機関の全国的整備がどうなるか
- 新解剖制度による制度の複雑化をどう解消するか
- 災害・事故・自殺など公衆衛生目的の究明をどう充実させるか
- 大震災など緊急時の対策をどう進めるか
- 明治・大正以来不変の刑訴法にどう手を付けるか
- どう省庁縦割り行政を打破し、予算を確保するか

*石原氏の講演スライドより

『死因身元調査法』（「警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律」）、一般には聞きなれないかもしれませんが、一言で説明すると、
<犯罪による死かどうか分からない場合でも、裁判所の令状や遺族の承諾なしに死体を解剖できる>
 と規定した法律です。

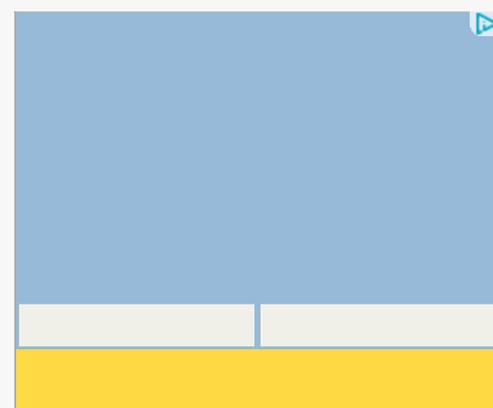
もっと見る

個人の書き手も有料ニュースを配信

「日銀は3年超5年以下の国債買入を増額」牛さん熊さんの本日の債券（引け後） 2018年1月31日

iPad Proにとりあえずインストールする20アプリ（前編）

売り言葉に買い言葉の心理：仲の良い夫婦、恋人になるために



施行されてから5年が経ち、新しい法律に基づいて行われる、通称「調査法解剖」は年々増加していますが、一方で、従来の司法解剖やその他解剖（監察医解剖・承諾解剖）が減少するなど、新たな問題も出てきています。

死因身元調査法 施行前後

3種類の解剖の経年変化（全国）

	司法解剖	調査法解剖	行政解剖	合計
24年	8,520	0	10,698	19,218
25年	8,356	1,418	9,262	19,036
26年	8,684	1,921	8,787	19,392
27年	8,424	2,395	9,302	20,121
28年	8,326	2,605	9,487	20,418

*石原氏の講演スライドより

また、研究会では全国各地の大学からも現状報告がなされ、都道府県によって調査法解剖の手続きや経費のかけ方がまったく異なることが明らかになりました。

同じ日本人の死因究明に対する扱いが、県境を越えると変わるというのもおかしな話ですが、まさにこのドラマに登場する「不自然死究明研究所」のように、警察庁や厚生労働省、全国の大学の法医学教室がネットワーク化された機関が作られることが必要なのかもしれない。

研究会では今後、法医学者、行政担当者、法学者、弁護士、メディア関係者との連携を強め、犯罪見逃しの防止、事故や自殺等の予防、大規模災害への備えなどを目的に活動を行い、「死因究明等推進基本法」の成立、それに伴う国の司令塔的役割の確立を目指していくそうです。

ちなみに、ドラマ『アンナチュラル』の舞台設定はあくまでも架空ですが、撮影に使用されているセットは東京医科歯科大学の法医解剖室がモデルとなっており、解剖台から解剖器具、長靴やホワイトボードなど、細部にわたって超！リアルです。

また、主人公が女性ということもあり、同大学の女性法医学者のデスクの上まで詳細に観察し、再現したとのこと。

ドラマをご覧の方は、そのあたりも注目してご覧ください。

[ツイート](#) [シェア](#) [ブックマーク](#)



柳原三佳

ノンフィクション作家・ジャーナリスト

京都市生まれ。交通事故、司法問題をテーマに各誌に執筆。「週刊朝日」等の告発ルポ連載をきっかけ